

2024年2月15日

各 位

株式会社東邦システムサイエンス

CDP「気候変動レポート 2023」にて「B-」スコアの評価を獲得

株式会社東邦システムサイエンス（本社：東京都文京区、代表取締役社長：小坂友康、以下「当社」）は、国際的に環境評価の情報開示に取り組む非政府組織（NGO）であるCDP（※）が公表した「気候変動レポート 2023」において、「B-」スコアと評価されましたのでお知らせいたします。

取り組みの評価は「A、A-、B、B-、C、C-、D、D-」の8段階で行われ、当社は「B-」を獲得し、昨年の「C」スコアよりランクアップした評価を獲得しました。

CDPにおいて、「B-」スコアはマネジメントレベルと評価され、「環境によるリスクやその影響の管理を実施している」と評価されたことを示すものです。

当社は、2023年度にTCFDへ賛同し、2050年度までには実質カーボンニュートラルを目指して取り組み（◆）を進めております。

※CDPについて

CDPは、2000年にイギリスで発足した国際的な環境非政府組織（NGO）であり、世界需要企業の環境活動に関する情報を収集・分析・評価し、当該結果を機関投資家向けに開示することで、企業の環境情報開示と環境活動の促進を目指しています。



◆「サステナビリティ経営」の推進

①基本方針

当社は「長期経営ビジョン 2030」のもと、「お客様と共に未来を創る」をスローガンに、「お客様が求める価値を共に創造し実現するとともに、その先にある社会課題の解決を図り、持続可能な未来社会を創る」をビジョンとして掲げています。

当社は、サステナビリティへの取り組みについて、「サステナビリティ基本方針」のもと、社会と当社の持続可能性向上を目的とした「サステナビリティ経営」を推進しています。

具体的な内容については、当社HPのサステナビリティサイトをご覧ください。

●関連サイト

・サステナビリティサイト：<https://www.tss.co.jp/tabid/593/Default.aspx>

②具体的な取り組み

気候変動対策は喫緊の課題であり、当社における重要な経営課題であると認識し、2022年度から2030年度までにCO₂排出量（Scope1・2）34%削減、2050年までにCO₂排出量（Scope1・2）ゼロ化とする目標を策定いたしました。

2023年12月にトラッキング付FIT非化石証書を購入し、実質再生可能エネルギーへの一部切り替えを行うことにより 2022年度のCO₂排出量に対し113t-CO₂の削減（前年比34%以上）となり、削減目標を前倒して達成できる見込みです。

●関連サイト

・ニュースリリース：2024/1/31 非化石証書を活用した温室効果ガス削減について
<https://www.tss.co.jp/LinkClick.aspx?fileticket=Us7loNbUt%2f%3d&tabid=63&mid=473>

・2024年3月期 第3四半期決算説明会（資料P.12）
<https://www.tss.co.jp/newsrelease/tabid/63/Default.aspx?itemid=870&disp mid=461>

今後も当社は、気候変動対策を継続的に推進し、非財務情報の開示をも積極的に実施しながら企業価値の向上に努め、持続可能な社会の実現に向け貢献してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社東邦システムサイエンス 企画部経営企画課
電話番号：03-3868-6061 メール：info@tss.co.jp

以 上